



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和5年度 第二回学校関係者評価委員会

令和5年11月27日（月）



— 本日の予定 —

全体会：

午後3時00分～

午後5時00分



校 長 挨 拶

船 山 世 界



令和5年度前期取組みについて 中間報告

評価・ご意見 記入方法

Googleフォーム: <https://forms.gle/yuY5YSHgdNNnNwDLA>

令和5年度 第二回学校関係者評価委員会
評価

yosuke@jec.ac.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

学校の近況

評価結果 *

☐ 十分

☐ 不十分

コメント欄

回答を入力

戻る 次へ

フォームをクリア



令和5年度 第2回学校関係者評価委員会 教育重点項目実績報告(前期)



報告内容

1. 学校の近況

2. 教育重点項目（中間報告）

1) NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

- (1)「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」
- (2)学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実
- (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討
- (4)遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

2) クリエイター教育/エンジニア教育の重点項目



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和5年度前期 学校の近況



学校の近況(1/14)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 4月6日(木)、第19回「ACジャパン広告学生賞」でCG映像制作科、グラフィックデザイン科学生が奨励賞を受賞しました！



↑ テレビCM部門

タイトル: 気付こう! 自殺信号

テーマ: 自殺予防

新聞広告部門 ⇒

タイトル: 電車マナーをカンガエルー

テーマ: 電車マナー



- 英国教育大臣 ジリアン・キーガン氏視察
 - 5月12日(金)、G7富山・金沢教育大臣会合に出席するために来日され、日本の職業訓練・職業教育現場の視察を目的に来校されました。



- 中華民国(台湾)新北市政府教育局と「国際教育協力に関する覚書(MOU)」を締結
 - 6月9日(金)、新北市政府庁舎にて調印式が執り行われ、校長と劉明超 新北市政府教育局副局長が署名しました。



- 「NetAcad Riders 2023」日本1位2位受賞！
 - 6月26日(月)、主催するシスコシステムズ合同会社様よりネットワークセキュリティ科の学生2名が表彰されました。



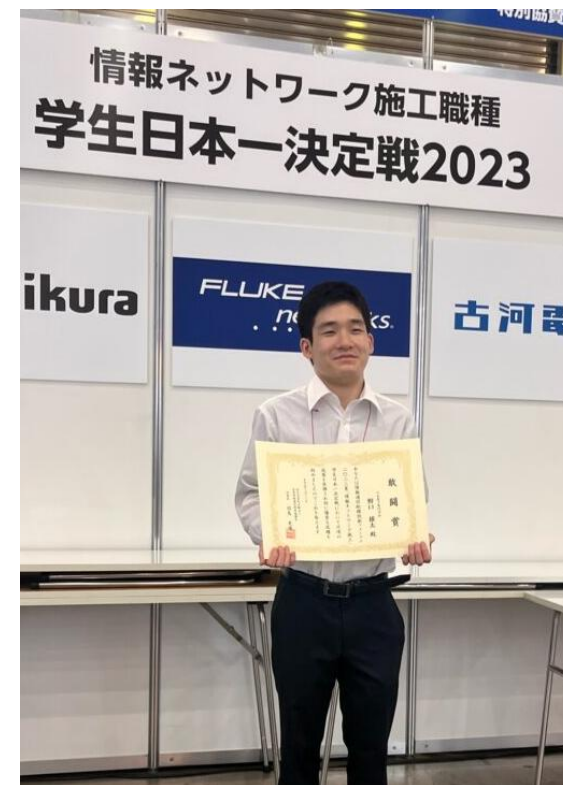
学校の近況(5/14)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 「情報ネットワーク施工 学生日本一決定戦」にて敢闘賞を受賞！
 - 6月29日(木)、情報通信配線技術フォーラム2023夏で行われたNPO 法人高度情報通信推進協議会主催 情報ネットワーク施工学生 日本一決定戦に参加し、電気工事技術科2年生が敢闘賞を受賞しました。



- 山谷えり子参議院議員が視察に訪れました。
 - 7月13日(木)、山谷えり子参議院議員が来校され、Webデザイン科、グラフィックデザイン科、ゲーム制作研究科、ゲーム企画科、情報処理科、コンピュータグラフィックス研究科の6学科の授業を見学されました。



- 第18回若年者ものづくり競技大会 入賞多数。
 - 8月1日(火)、2日(水)に静岡県で開催
 - ウェブデザイン職種
 - 金賞／厚生労働大臣賞 Webデザイン科
 - 業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種
 - 金賞／厚生労働大臣賞 情報システム開発科
 - グラフィックデザイン職種
 - 敢闘賞2名 グラフィックデザイン科



- 日本留学AWARDS 2023 大賞を受賞。
 - 9月1日(金)、日本語学校の教職員が留学生に勧めたい専門学校を投票によって選出。2年ぶりに表彰式を開催。本校は2012年～2016年の5年連続で大賞を受賞し殿堂入りを果たしており、今回も2大会連続の大賞受賞となりました。



- (産・官・学連携事業)Tokyo P-TECHの運用
 - 東京都教育庁主管事業
 - 工科高校3年間＋専門学校2年間でIT人材育成
 - 東京都立荒川工科高等学校(情報技術科)×日本電子専門学校、R5正式運用開始
 - 情報システム開発科、柳橋科長が、「工業情報数理」授業科目担当
 - 9月14日(木)上級学校見学会
 - 体験授業4コース運用、 情報技術科2年生50名参加

- 9月19日(火)、第26回スポーツフェスティバルを東京ドームにて開催しました。
 - 4年ぶりの開催にはIU学生も参加して、学生・教職員が躍動しました。

第26回
SPORTS



学校の近況(11/14)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 28年連続出展！
 - 「東京ゲームショウ2023(TOKYO GAME SHOW)
in 幕張メッセ」



TOKYO
GAME
SHOW
2023

9.21^{TUE} - 9.24^{FRI}

- 東京出入国在留管理局から「適正校(クラスⅠ)」として選定されました。(10月16日(月))
 - － 選定の概要
 - 出入国在留管理庁においては、留学生に係る入国・在留審査を適切かつ円滑に行う観点から、毎年、在留資格「留学」により留学生を受け入れている教育機関の中から適正校(留学生の在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関)を選定しています。
 - 適正校として選定された教育機関は、在籍する留学生が在留許可の申請を行う際に提出書類の一部が省略されるなど、手続の簡素化の対象となります。
 - － 適正校のクラス分け
 - 適正校として選定された教育機関のうち、次のアからウまでの基準を全て満たし、特に在籍管理が適正であると認められる教育機関を「適正校(クラスⅠ)」に選定し、それ以外の適正校については、「適正校(クラスⅡ)」に選定します。
 - 適正校(クラスⅠ)に選定された教育機関は、諸申請における提出書類が更に簡素化されます。

学校の近況(13/14)



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

- 10月28日(土)-29日(日)、日専祭を開催しました。
 - TAKE ACTION! をキャッチフレーズに、学習成果発表、声優トークショー、屋台などが繰り広げられました。



- 学校法人電子学園中期事業計画2026-2030

Denshi Vision 2030 未来をつくる。期待にこたえる

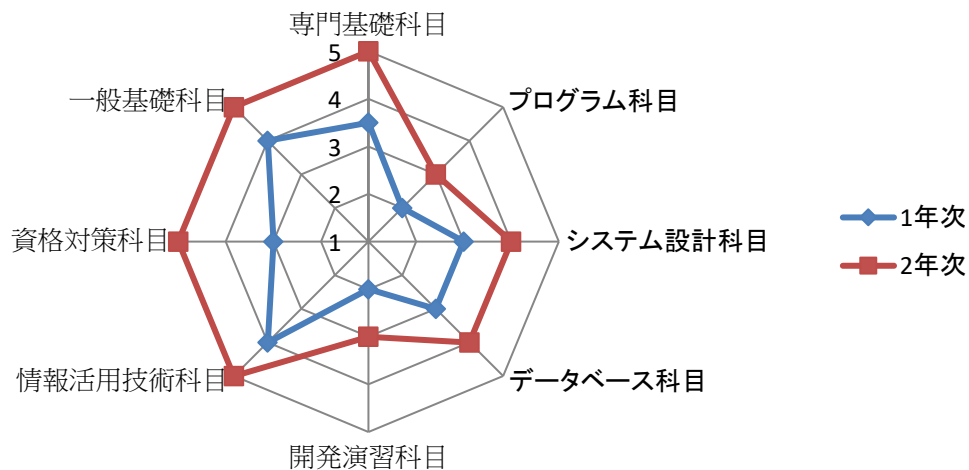
。

(テーマ) 日本電子専門学校の確かな歩みと新たな未来

- 2030年、創立80周年の日本電子専門学校のあるべき姿に向けた課題抽出。
- 杉浦副校長が中心となり、10名以上の教職員メンバーで委員会で議論。



1. 「建学の精神」の実現に向けた 「教育の質の保証・向上」



・ディプロマサプリメント(仮称)による学修成果の可視化

【情報処理科(2年制課程)で試行】

学習分野	情報処理科の学修分野を以下の6つにカテゴリ化。 1. ITリテラシ 2. プログラミング 3. データベース・SQL 4. Web技術 5. 設計 6. サーバ構築・運用
スキルレベル	スキルレベル基準として以下の3段階で分類。 レベル3: 成績 A 相当で到達するスキルレベル レベル2: 成績 B 相当で到達するスキルレベル レベル1: 成績 C 相当で到達するスキルレベル (最低限の卒業要件)

学修成果の再設定プロジェクト



学校法人 電子学園

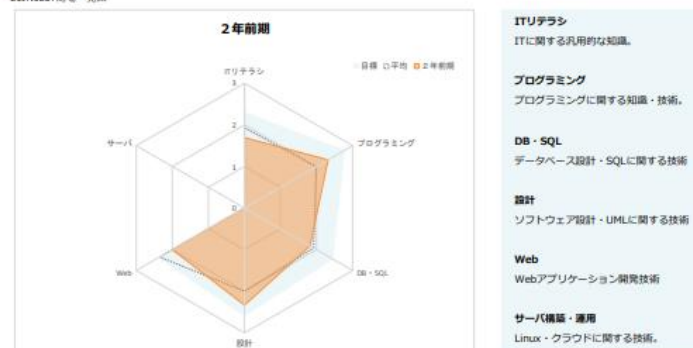
日本電子専門学校

【情報処理科ディプロマサプリメント(案)】

ディプロマサプリメント

21JIN0237馬場 亮太

2022/9/15



あなたの現在の習熟度は以下となります。

学修カテゴリ	スキルレベル	
ITリテラシー	1.7	1 ITの基礎知識において、基本情報技術者試験と同等水準の基礎的な理解力と応用力を有する。
		2 ITの技術要素において、IT/サポートと同等水準の、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を有する。
		3 ITの技術要素において、情報活用試験3級と同等水準の、PCの操作、利用と役割、機能、および情報の利用、情報モラル、セキュリティなどに関わる基礎知識を有する。
プログラミング	2.3	1 OSCP-Silverに相当するJavaアプリケーション開発に必要とされる基本的なプログラミング知識を有し、上級者の指導のもとで開発作業を行うことができる。
		2 OSCP-Bronzeに相当するオブジェクト指向プログラミングの基本的な知識を有し、継承、インタフェース、例外を利用し、効率的に開発を行うことができる。
		3 JSP, Servletを用いた基本的なWebアプリケーションが作成できる。
DB・SQL	1.8	1 E-R図やUMLを使用した構成要素、属性、関係の表し方、カーディナリティ（1対1、1対多、多対多）などを用いてデータベースを設計出来る。
		2 関係データベースのデータに対する挿入、更新、削除、結合の操作、およびリレーションシップを考慮したテーブルの新規作成ができる。準備済みのテーブルに対し、プログラムから適切なSQLを発行し、データベースを活用したプログラムが作成出来る。
		3 関係データベースから目的に合わせたデータを抽出出来る。
設計	2.3	1 システム設計工程と作成する成果物（UMLダイアグラム）が説明出来、レビューを通して「卒業制作」で作成するシステムの設計書が作成出来る。
		2 企画書からユースケースを洗い出し、画面遷移図、ロバストネス図・シーケンス図、クラス図が作成出来る。
		3 ソフトウェア開発工程と作成する成果物（UMLダイアグラム）の説明出来る。
Web	2.0	1 ユースケース図、アクティビティ図が作成出来る。
		2 HTTPを活用した実践的なWebアプリケーションを作成出来る。
		3 PHPの基本文法を用いたWebページが作成出来る。
サーバ構築運用		1 HTML5、CSS3を用いた基本的なWebページを作成出来る。
		2 クラウドサービスのデプロイの仕様や手法について理解し、Webアプリケーション科目でローカルサーバに構築したサービスをクラウド上にデプロイ出来る。
		3 AWS-900と同等水準のクラウドサービスおよびMicrosoft Azureの基礎知識を有する。
		2 クラウドサービスを利用したデータベース環境が構築出来る。
		1 Linuxシステムのプロファイルやディレクトリ操作のコマンドを使うことができる。
		クラウドシステムの構築について説明出来る。

あなたの診断結果

サンプル。とても優秀な...
知識面と技術面の両輪でこれからより一層、この親子で、...

産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・ジェネリックスキル診断「PROG」を活用し 基礎的・汎用的能力を測定

※「PROG」とは、社会で求められている能力を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントです。

リテラシー	知識を利用して課題を解決する力(≡思考) ・情報収集力 ・情報分析力(言語処理力、非言語処理力) ・課題発見力 ・構想力
コンピテンシー	経験を積むことで身についた行動特性(≡態度、技能) ・対人基礎力(親和力、協働力、統率力) ・対自己基礎力(感情制御力、自信創出力、行動持続力) ・対課題基礎力(課題発見力、計画立案力、実践力)

産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト

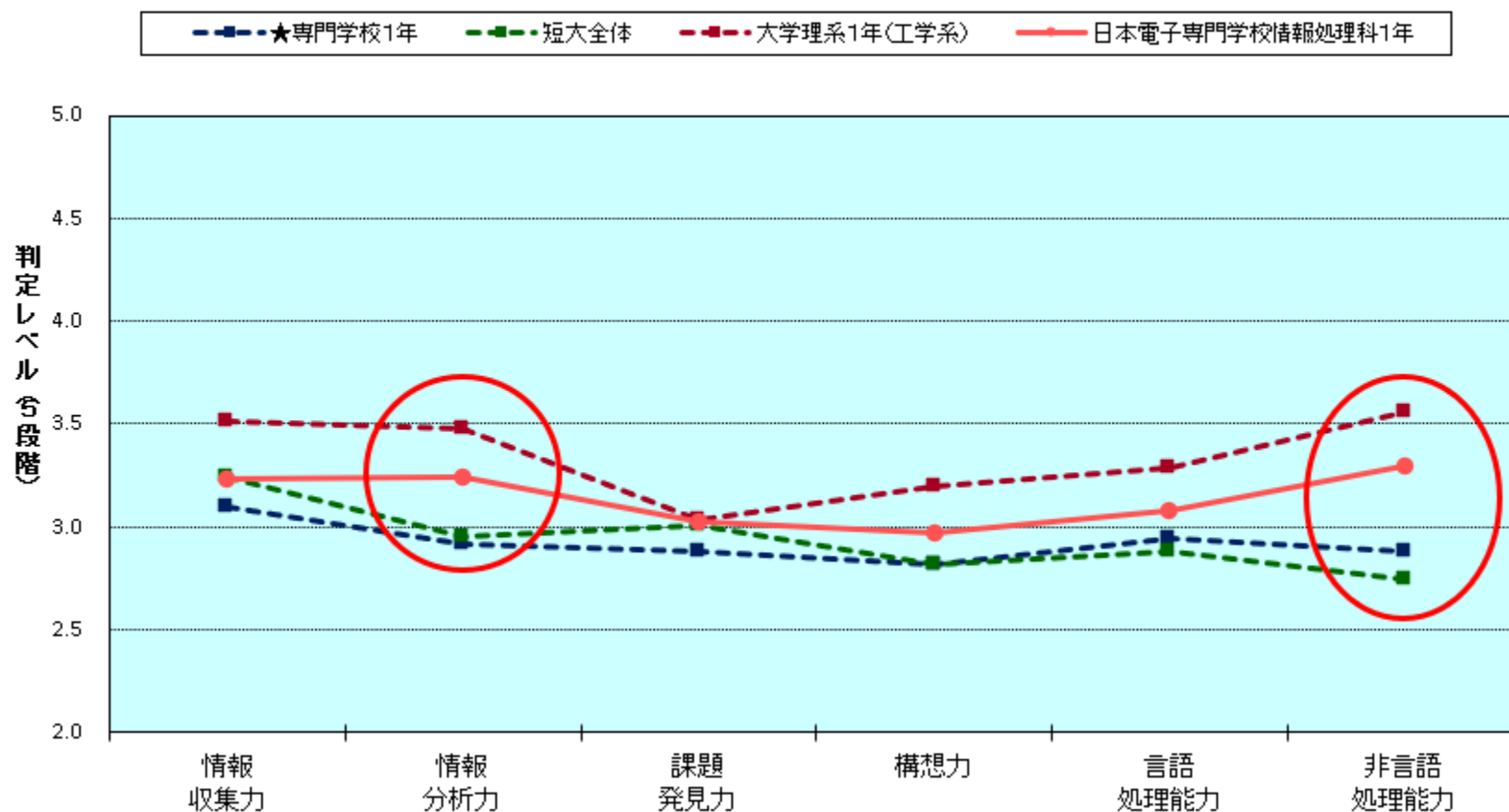


学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・情報処理科1年リテラシーの診断比較

リテラシー要素



産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成プロジェクト



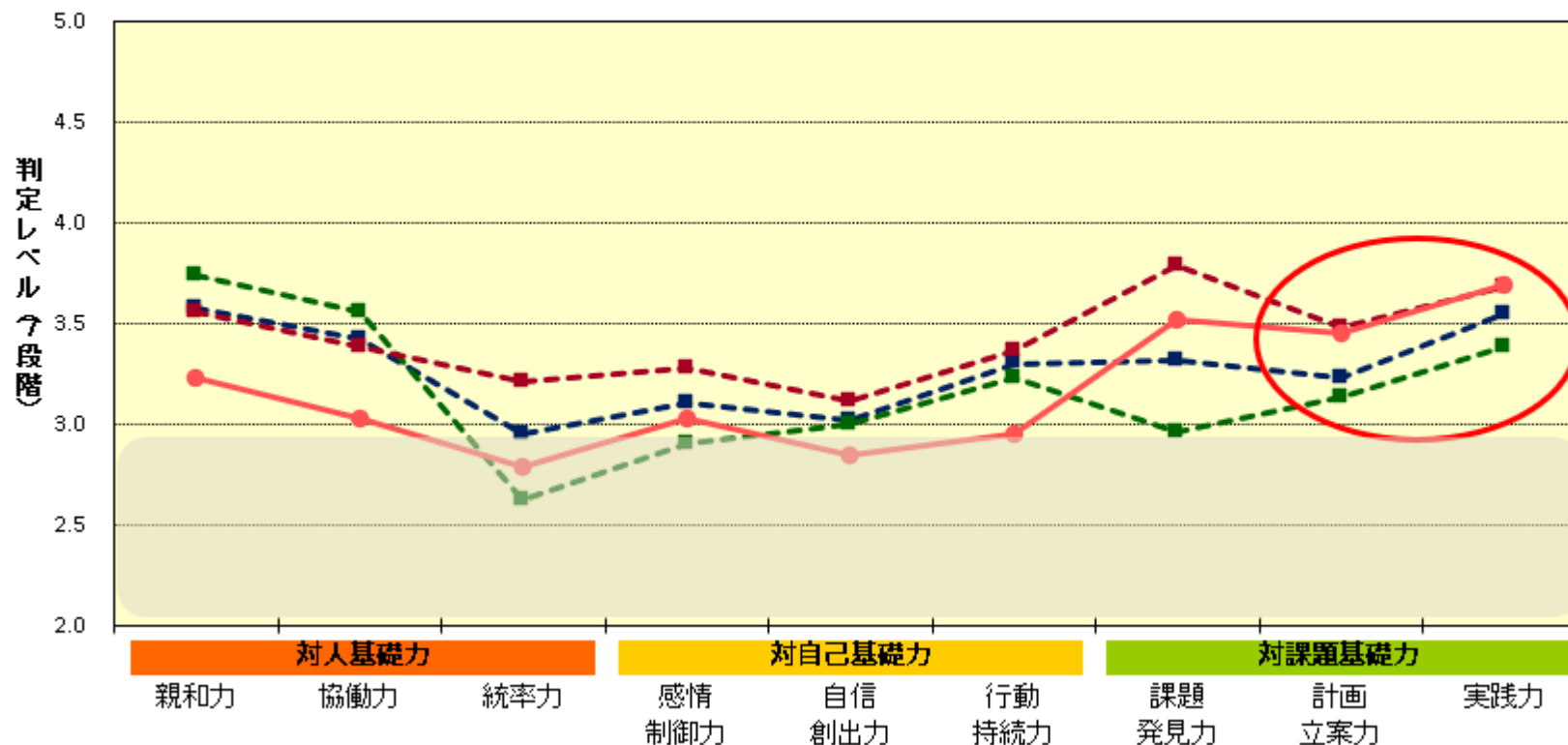
学校法人 電子学園

日本電子専門学校

・情報処理科1年コンピテンシーの診断比較

コンピテンシー中分類要素

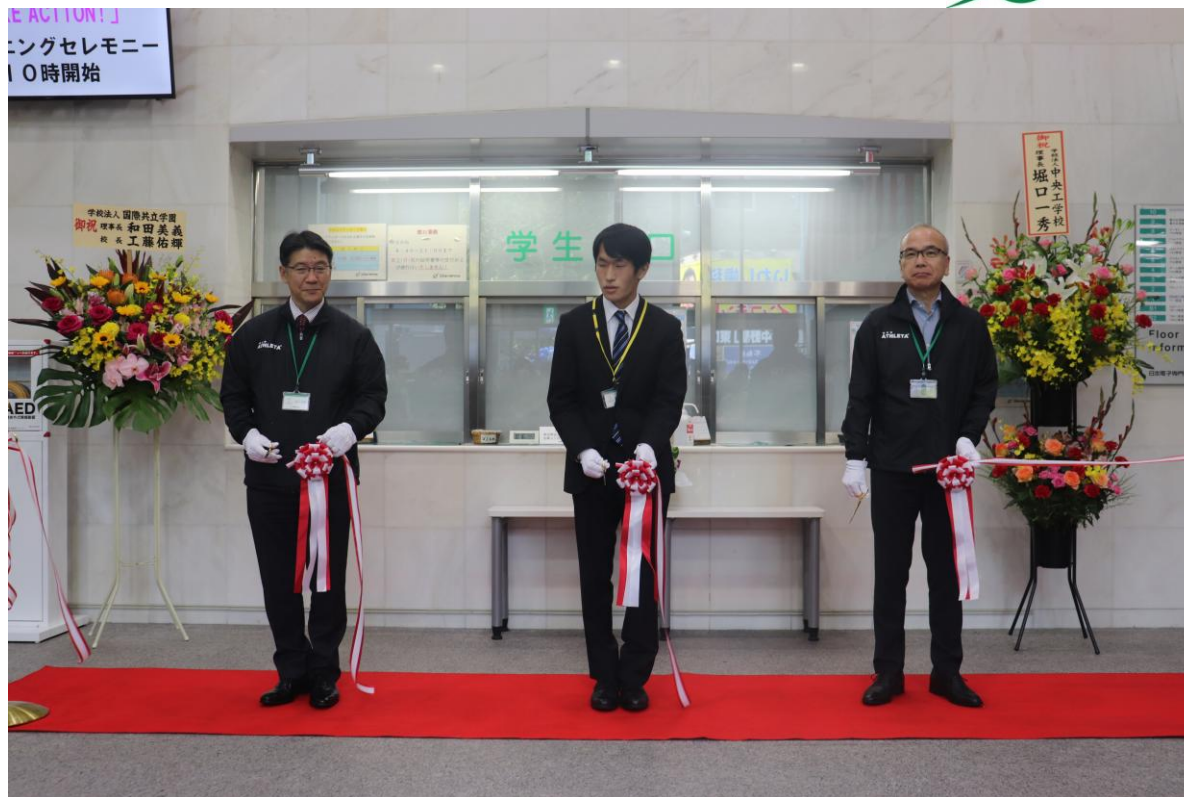
★専門学校1年 短大全体 大学理系1年(工学系) 日本電子専門学校情報処理科1年



能動的
行動

通常
行動

受動的
行動



第54回 日専祭オープニングセレモニー

2. 学生主導で社会人基礎力を養う キャリア教育の充実

- 本テーマの目的
 - ①学生自治会の適正運用、②学生主体の学校行事の在り方の検討、③クラス内組織の検討を通して、学生の社会人基礎力の向上を図ること
- 前期の実績
 - ①学生自治会の適正運用について
 - 新入留学生歓迎会
 - 学校関係者評価委員会への参加
 - クラブ・同好会紹介イベント開催
 - 学生自治会 会則の検討・作成
 - 次年度事業計画・予算計画 草案作成
 - クラス委員長定例会の適正運用について検討・提案



キャリア教育分科会



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和5年度 学生自治会メンバー 合計24名 ※昨年度39名
卒業年次17名 内定15名 ※11/13現在新メンバー入会希望 32名

役 職	氏 名
会 長	武藤遼河
副会長	村木翔 、根本昌和、蔡ダウム
書 記	長谷川篤桃 、茂呂洋佑、 泉澤蒼良
総 務	木村和馬 、向後陽央、瀬川勝元
イベント	高橋星匡 、宮下好葉、石井航太郎、 棟方秀翔 、 堀水幸輝
ボランティア	藤本崇正 、 根本竜也 、 伊藤一真 、 峰尾憲太郎 、 小出颯人 早川依吹
広 報	上條颯斗、水村将久
経 理	小島海

• 前期の実績



日本電子専門学校学生自治会則

第1条（名称）

本会は、日本電子専門学校学生自治会（以下、「学生自治会」という。）とする。

第2条（目的）

学生自治会は、学生自主的な活動及びイベント運営により、学生同士の親睦、学生生活全般の充実、社会人基礎力の向上を図る。

第3条（学生自治会総会）

1. 学生自治会総会は学生自治会運営の最高機関である。その決議は学生自治会の最高意思である。
2. 学生自治会総会は、年1回（2月）に行う。

第4条（学生自治会総会の開催事項）

学生自治会総会は、次の事項を審議する。

- ①前年度活動報告及び決算報告 ②基本方針及び活動方針の決定 ③予算の承認
- ④その他学生自治会総会に附するべき重要事項の決定及び承認

第5条（組織）

学生自治会の運営は内閣に定められた以下の組織を設け、

- ①学生自治会本部 ②学生自治会イベント部 ③学生自治会広報部

第6条（学生自治会本部）

学生自治会本部（以下、「本部」という。）は、学生活動に係る種々の問題等について協議及び調整し、学生活動が円滑に進むようを図る。

第7条（学生自治会イベント部）

学生自治会主催の学内イベントの企画・実行を行う学生自治会イベント部（以下、「イベント部」という。）を設置する。

第8条（学生自治会広報部）

学生自治会の宣伝・広報及び新入生自治会会員募集を行う学生自治会広報部（以下、「広報部」という。）を設置する。

第9条（入会）

入会は、新入生自治会会員募集の際に広報部員に入会届けを提出する。新入生自治会会員募集期間ではない場合でも同様にを行う。退会の場合は本部に相談する。

付則

この会則は2023年10月10日より実施する。

以上

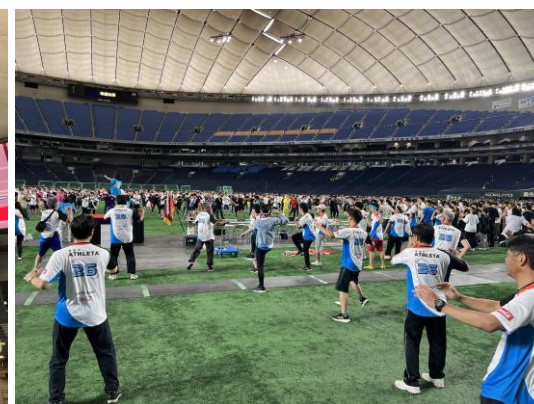
• 前期の実績

②学生主体の学校行事の在り方の検討 － スポーツフェスティバル実行委員会

※スポーツフェスティバルを4年ぶりの開催

※学生主体を前面に押し出したが、学生も教員も初めて経験することからイメージがわかず難しい局面になった。

そのような中でも、学生の主体的かつ意欲的な行動のおかげで無事終了することが出来たのは大きな成果であった。



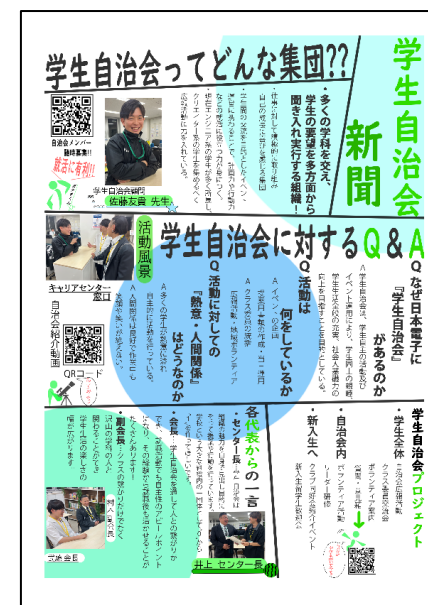
• 前期の実績

③クラス内組織の検討

ークラス委員長定例会議撤廃

「クラス委員交流会」として再立ち上げ

※11/13現在後期2回目を実施



- 後期の取り組み

- * 日専祭実行委員会（無事終了）

- * 在校生全学生の社会人基礎力の測定（2年目）

- 2024年2月に在校生全員に実施（進級・卒業）

- * 学生自治会会則の完成

- * 令和6年度事業計画・予算計画の完成

- * クラス委員交流会の継続実施

- * リーダ研修会の実施（12/26学生自治会で実施予定）

- * ボランティア活動への参加



3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

学科新設

+

既存学科の見直し

常に「魅力のある、募集力の高い状態」を
保つための土台作り

令和5年度実施予定項目

- ① 新設学科・附帯教育アイディアの一般公募
- ② 新設学科検討チームによる検討・提案
- ③ 附帯教育に関する取り組み強化
- ④ 学科統廃合スキームに基づく既存学科の見直し



令和5年度上半期の実績

【学科新設スキーム】

①

新設学科・附帯教育
アイディアの一般公募

②

新設学科検討チーム
による検討・提案

第一次スクリーニング

(各分野・部署代表者による採点 + 分科会メンバーによる検討)

第二次スクリーニング

(役員会での検討)

①新設学科・附帯教育アイディアの一般公募

アイディア応募【 2件 】

提案者へのヒアリング・意見交換を実施、
2件のうち1件をブラッシュアップ

②新設学科検討チームによる検討・提案

前年度一般公募にて収集した新学科アイディアについて
検討チームを編成し、前年度末より継続検討

→ 各アイディアを 第一次スクリーニングへ

検討チーム提案の新学科アイデアが
第一次スクリーニングを通過



新学科設立提案書を作成、役員に提出
第二次スクリーニングへ

③ 附帯教育に関する取り組み強化

アイディア応募【 5件 】

過年度分も含めたアイディア一覧を作成、全体に共有
部署間で協力しながら実現に向けて調整

★通年でアイディアを募集することとした

④学科統廃合スキームに基づく既存学科の見直し

学生数、損益分岐比率の推移、募集イベント参加状況などをもとに、既存学科の状況調査を実施

→ 一部分野・学科について改善の必要性を確認
学科長に情報共有、状況改善に向けた検討を実施

下半期に向けて

- ・DXスペシャリスト科のフォローアップ
- ・附帯教育 教育活動実施に向けた検討・調整
- ・既存学科の募集改善に向けた諸対応
- ・募集状況に応じた次年度クラス数増減を判断



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

4.遠隔授業の標準化・質保証と 先端テクノロジーの利活用

- 検討目的
 1. 遠隔授業ガイドラインの策定を行う
 2. ナレッジベースの構築を行い、業務に関する知見を共有化する
 3. 教育への先端テクノロジー利活用の検討を行う

- チーム編成
 - 標準化検討チーム
 - 研修企画、ガイドライン策定、授業配信環境整備・高度化等、学内横断的な部分を取り纏める
 - 調査研究チーム
 - 遠隔授業の効果を高めるため、ノウハウを集約したナレッジベースの構築・運用を行う。
 - 先端テクノロジーの利活用についてもその方策を検討する。

- 令和5年度前期の成果
 1. 「生成系AIの利用に関する留意事項」の策定
 2. 先端テクノロジーの利活用のテーマに対する試用・調査等の実施

- 学生のオンライン授業アンケート実施
- オンライン授業ツール変更に伴う調査実施
- ナレッジ蓄積の促進・対策

- 「生成系AI利用に関する留意事項」の策定
 - 学生向け・教員向けと、それぞれの観点で生成系AIを利用する際に留意すべき事柄をまとめたもの。
 - 学内で共有後、次年度は「学園生活ガイド」および「授業運用ガイドライン」へ項目追加する予定
 - 基本方針、継続的な見直しに関する事項、授業での利用に関する注意事項や生成系AIの利用が適しているケースと適していないケースを例示

遠隔教育標準化分科会



学校法人 電子学園

日本電子専門学校

令和 5 年 9 月 25 日

各位

N10 遠隔授業標準化プロジェクト
標準化検討チーム

生成系 AI の利用に関する留意事項（学生向け）

（基本方針）

本校では、先進的な職業教育とキャリア教育を推進するために新しい技術を活用していくことは望ましいと考え、発展著しい生成系 AI を授業等において利用する事を否定しない。ただし、生成系 AI には出力されるデータの信頼性の問題や、誤用・悪用、それによる教育効果の低下といったリスクも伴っており、以下のポイントを踏まえた利活用が必要となることに気をつけること。

（継続的な見直しについて）

なお、生成系 AI は今後も急速な進歩が続くと想定されるため、現段階での留意事項を以下に示すが、技術の進歩などに応じてこの留意事項についても適宜見直ししていく。

（生成系 AI の説明）

※生成系 AI とは ChatGPT 等に代表される人工知能の一種で、人間のように文章を作成したり、会話をしたり、画像を生成したりすることができるプログラムのこと。これはテキスト生成系 AI、画像生成系 AI の他にも音声生成系 AI、3D モデル生成系 AI、動画生成系 AI などを含む。

（教員から生成系 AI 利用の指示を確認すること）

- 授業受講に際して、担当教員が事前に生成系 AI の使用の許可や制限についてあらかじめ説明するため、教員の指示を確認し遵守すること。また、使用した際にはどの生成系 AI を活用したものなのかを明示すること（課題そのものが指定された生成系 AI の使用を前提としている場合は除く）。

（生成系 AI が生成するデータの信頼性・著作権の侵害に対する注意事項）

- ChatGPT 等のテキスト生成系 AI ツールの出力は、インターネットで収集したテキストを格納した大規模なデータベース（教師データ）を利用して作られるため、他人の文章・コード等を知らないうちに盗用する可能性があることに留意する。さらに、情報の出典について不明、または不正確なこともあるため、情報を鵜呑みにすることは危険である。もっともらしい回答でも事実関係の間違いが含まれる可能性もあるため、事前に検証するようにしなければならない。作成したレポート課題や成果物に対しては、自分自身に著作者としての責任があることを自覚しなければならない。

（生成系 AI の利用が適しているケースと適していないケースの例）

- アイデアのブレストや、プログラミングのエラー対処の問い合わせ、就職活動において、面接でのやり取りをリハーサルするなどは、生成系 AI の利用が適しているケースといえる。逆に教師データの少ない内容（レアケース）に対して生成された情報には信頼性が低いといえるため、利用には注意が必要である。

（個人情報の流出に対する注意事項）

- 生成系 AI の特性により、入力したデータを蓄積し他のユーザへの出力内容に利用されることも想定されるため、個人情報といったプライバシーに関わる情報を入力しないよう留意する。

以上

令和 5 年 9 月 25 日

各位

N10 遠隔授業標準化プロジェクト
標準化検討チーム

生成系 AI の利用に関する留意事項（教員向け）

（基本方針）

本校では、先進的な職業教育とキャリア教育を推進するために新しい技術を活用していくことは望ましいと考え、発展著しい生成系 AI を授業等において利用する事を否定しない。ただし、生成系 AI には出力されるデータの信頼性の問題や、誤用・悪用、それによる教育効果の低下といったリスクも伴っており、以下のポイントを踏まえた利活用が必要となることに気をつけること。

（継続的な見直しについて）

なお、生成系 AI は今後も急速な進歩が続くと想定されるため、現段階での留意事項を以下に示すが、技術の進歩などに応じてこの留意事項についても適宜見直ししていく。

（生成系 AI の説明）

※生成系 AI とは ChatGPT 等に代表される人工知能の一種で、人間のように文章を作成したり、会話をしたり、画像を生成したりすることができるプログラムのこと。これはテキスト生成系 AI、画像生成系 AI の他にも音声生成系 AI、3D モデル生成系 AI、動画生成系 AI などを含む。

（生成系 AI の利用に対して授業開始時に明示する）

- 授業開始時において学生に対し、生成系 AI の使用の許可や制限についてあらかじめ説明し、学生が課題や実習で生成系 AI を利用した場合の成績評価の公平性を保つように配慮する。学生の提出した課題が生成系 AI によって出力されたテキストか見分けるツールもあるが、まだ信頼性がそこまで高くなく、正確に見分けることは困難であることに留意する。

（生成系 AI の利用が適しているケースと適していないケースの例）

- アイデアのブレストや、大量の画像コンテンツの準備、プログラミングのエラー対処の問い合わせなど、生成系 AI の利用が適しているケースは様々考えられる。就職活動においては、面接でのやり取りをリハーサルするといった際には、生成系 AI の利用が適していると考えられるが、一方で自己 PR や志望動機などを考える際に、出力されたテキストをそのまま利用してしまうと、面接本番で自分の言葉で話をするのが難しくなるため、出力結果はたたき台としての利用に留める等、指導時は注意すること。

（個人情報の流出に対する注意事項）

- 生成系 AI を使って学生の提出した課題の採点補助をする場合、生成系 AI の特性により入力したデータが蓄積され、他のユーザへの出力内容に利用されることも想定されるため、学生の個人情報といったプライバシーに関わる情報を入力しないよう留意する。

以上

- 先端テクノロジーの利活用のテーマに対する
試用・調査等の実施
 1. Github Classroom を使ったオンライン課題確認システムの運用
 2. TOPSICの試験導入
 3. Track Trainingの導入検討
 4. 教員向けChatGPTを使った教育事務業務の効率化
 5. NFT(バッジ)を利用した学習成果の見える化



• Github Classroom を使ったオンライン課題 確認システムの運用

The screenshot shows a GitHub Classroom repository page. At the top, the repository name is 'di2-hui-huremuwakuwo-shitutapuroguramingu-urayama-y-kanehira' with a 'Private' label. Below the name, it says 'generated from urayama-ac-jp/practice1-level1-step2'. The page includes navigation tabs for Code, Issues, Pull requests (1), Actions, Projects, Security, Insights, and Settings. On the right, there are buttons for Edit Pins, Watch (0), Fork (0), and Star (0). Below these, there are buttons for 'main' (2 branches), 'Go to file', 'Add file', and 'Code'. A notification banner states 'Your main branch isn't protected' with a 'Protect this branch' button. The main content area shows a list of files and folders with their commit history:

File/Folder	Commit Message	Commit ID	Date	Commits
.devcontainer	Initial commit	bb78726	on Feb 8, 2022	5 commits
.github	Initial commit			
.vscode	Initial commit			
gradle/wrapper	Initial commit			
src	Step-2get/パラメータの取得			
styles	Initial commit			
.dockerignore	Initial commit			
.editorconfig	Initial commit			

On the right side, there is an 'About' section stating 'di2-hui-huremuwakuwo-shitutapuroguramingu-urayama-y-kanehira created by GitHub Classroom'. Below this, there are sections for 'Readme', 'Activity', 'Stars' (0), 'Watching' (0), 'Forks' (0), 'Releases' (No releases published), and 'Packages' (No packages published).

• TOPSICの試験導入

<TOPSIC>

AtCoder過去問・10yen Stamp

日本語

23jn9910@J...

受験

レポート

使い方

AtCoder過去問

SQLドリル

問題

提出履歴

解説

レイアウト切替

10yen Stamp

配点: 100 点

問題難易度: A

制限実行時間: 2秒

制限メモリ使用量: 1048MB

レイアウト切替

問題文

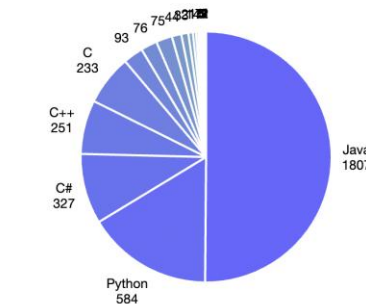
サンタさんに手紙を出したい高橋くんは、X 円切手が 1 枚だけ貼られた封筒を用意しました。サンタさんに手紙を届けるためには、貼られている切手の総額が Y 円以上である必要があります。高橋くんは、この封筒に 10 円切手を何枚か貼り足すことで、貼られている切手の総額を Y 円以上にしたいです。高橋くんは、この封筒に、最小で何枚の 10 円切手を貼り足す必要がありますか？

AtCoder過去問

SQLドリル

正解者の利用言語

① 集計内容



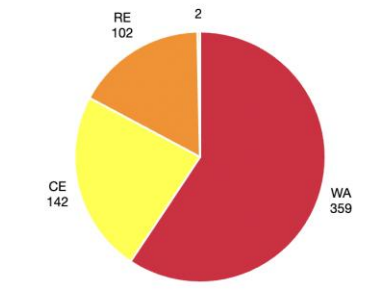
言語	回数
Java	1807
Python	584
C#	327
C++	251
C	233
その他	93, 76, 75, 48, 21, 12, 10, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1

② ヒント

問題毎にどんな言語が利用されているかが確認できます。言語の仕様によっては、解きやすい問題、解きにくい問題があるため、問題選定の参考にご利用ください。

誤答ステータスの割合

① 集計内容



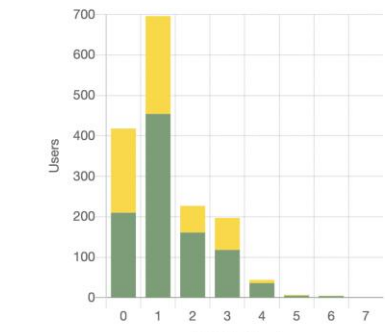
ステータス	回数
WA	359
CE	142
RE	102
TLE	2

② ヒント

誤答ステータスの割合から問題の傾向が判断できる場合があります。例えば「TLE」の割合が多い場合は実行時間制限に注意が必要な問題である可能性が高いです。

グレード毎の正誤割合

① 集計内容



TOPSIC Grades	正解数	誤答数
0	200	200
1	450	250
2	150	100
3	100	100
4	50	50
5	20	20
6	10	10
7	5	5

② ヒント

問題の正答率が同じであっても、受験者層のレベルが異なると問題の難易度も異なってきます。どれくらいのレベルの受験者が正解しているかをご確認ください。

• Track Trainingの導入検討

多くの教育機関が抱える課題

課題A 内定率UPor大手内定のための**就職活動対策**が不足

学生がチャレンジしない

傾向と対策への情報不足

学んできたスキルだけでは太刀打ちできない

コーディングテストとしての経験値

大手人気企業はコーディングテストを実施

↓
アウトプット力を育む&プラットフォームに慣れる



基本情報技術者試験の突破

基礎力をあげる

↓
模擬試験など同等のレベルの経験値を上げる

業界としての傾向と対策

自分のレベルがその業界内でどの位置にいるのかを知る

↓
多くの企業で採用されたプラットフォーム内の順位を確認



・ 教員向けChatGPTを使った教育事務業務の効率化

社内での活用促進②プロンプトレシピ オプション

プロンプトレシピができること

営業・マーケティング系アシスタント

- 商談の情報整理
- イベント企画
- CM制作

カスタマーサポート系アシスタント

- FAQ作成
- クレーム対応ロールプレイ
- 顧客対応整理

人事系アシスタント

- 求人票の作成
- 面接の準備、ロールプレイ
- スカウト文の生成

開発予定のプロンプトレシピ

汎用型アシスタント

- 汎用業務系
 - 業務マニュアル作成、Excel活用、など...

ChatGPTの個人利用と「法人GAI Powered by GPT-4」を導入することの違い

ChatGPT		法人GAI Powered by GPT-4
会話データがOpenAIのモデルの学習に利用される	データの扱い	会話データは学習に利用されない
ユーザー自身が登録するため誰が利用しているが不明	アカウント管理	管理者によるアカウント管理が可能
プロンプトテクニックを他のユーザーに伝えづらい	プロンプト共有	管理者が作成したプロンプトをユーザーに展開できる
ユーザー自身のアカウントの為、セキュリティ管理は個人に委ねられる	セキュリティ	管理者がIP制限やNGワードを設定できる
個人がクレジットカードでアカウントを作成する必要あり	利用の形態	法人単位で購入して個人に付与することができる

 Copyright

 Copyright © Giverty, Inc. All rights reserved.

・ NFT(バッジ)を利用した学習成果の見える化

最新事例紹介

MY アイデミー

近畿大学では学生にボランティア参加実績NFT及びメンバーシップNFTを配布。
参加したボランティア実績回数に応じて、メンバーシップNFTが進化

Point1 体験が一生の資産に

【ボランティア参加実績NFT】



学生が考えたデザインをNFT化
ボランティア参加毎に配布し
集めた数に応じて、
メンバーシップNFTが進化！

【メンバーシップNFT】



Solutions Company, Ltd. All Rights Reserved.

2

最新事例紹介

MY アイデミー

FC大阪では高校生大学生にワークショップ参加実績NFTを配布
様々な企業が学生の頑張りを評価。生涯に渡った記録が可能

Point1 体験が一生の資産に

ボランティア参加体験が、一生の資産となり、
就活時にパブリックチェーン上で証明可能。

Point2 複数の団体による評価

改ざん不可な領域で、体験内容や評価企業名の記述
が可能。各団体のブランディングへの使用も可能。

Point3 業務効率化・人材育成への応用

紙の証明書、修了証についてはデジタル化可能。
特定のNFTを持った人だけのページの作成も可能。
どの体験がどれだけ普及されていて、またそれらを
通じてどのように成長したかの分析が可能。

【参加実績証明NFT】



Description

改ざん不可な領域

By updney

2023年8月20日（日）に東大阪市花園ラグビー場で「FC大阪ブリッジフェスタ〜企業と次世代の交流ワークショップ〜」が開催され、本NFTは、参加実績証明として授与されました。
本イベントは、企業と学生の交流による前者の人間力向上と、企業の課題解決を目的としております。高校生が5ヶ月かけて考案したフードメニューのプレゼンテーションや販売、企業と学生が共同で課題に取り組むワークショップ、スポンサー企業によるトークセッション等が行われました。
株式会社F.C.大阪、株式会社A1Cエデュケーション、株式会社キタオ、株式会社ODKソリューションズ、株式会社ポトスは、開催した体験実績をもとに、学生一人ひとりの価値観に基づくキャリア形成支援の実現を目指しており、同NFTは、体験実績を生涯にわたって記録する役割を果たします。

ODKの公式キャラクター
NFTバッジが取得できます。
是非お試しください！



- 後期に向けた課題

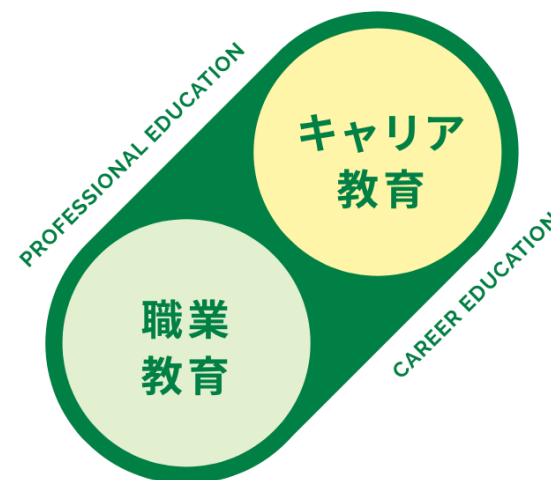
1. 学生向けオンライン授業アンケートを分析し、次年度以降のオンライン授業運用の方針決定に寄与する
2. 次年度からオンライン授業運用ツールが変更される。新たな運用に教員負荷がかかることなく移行する事を目指す
3. 先端テクノロジーの利活用の試行運用を通じて、次年度の具体的な運用を目指す
教員の負荷軽減→学生と向き合う時間を増やす



5. <教育重点項目> ドロップアウト対策の強化

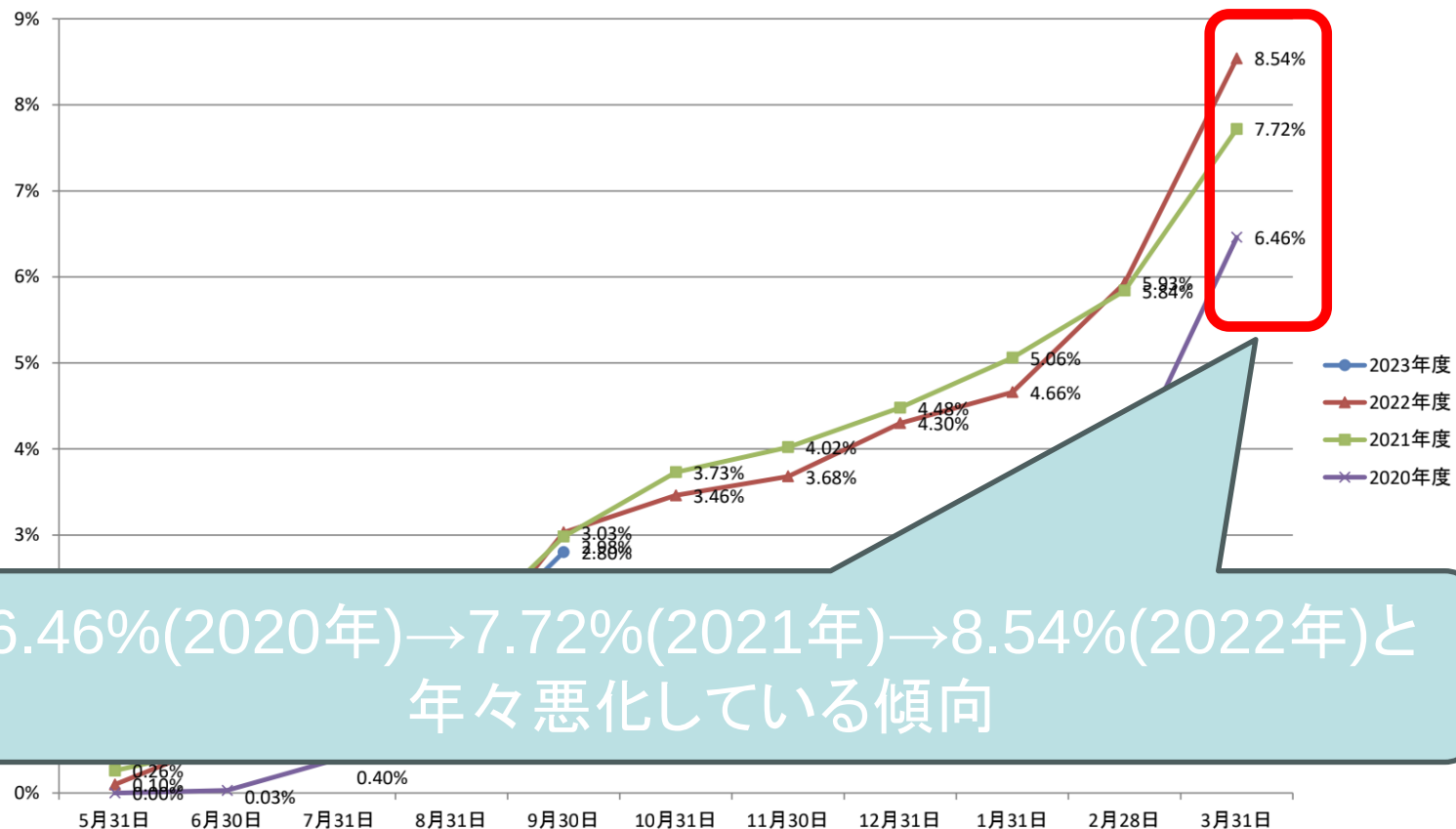
- ドロップアウト対策の強化

1. エンジニア教育・クリエイター教育ともに共通の問題として取り組む
2. 教員メンバーで構成された「ドロップアウト対策委員会」やキャリアセンターとも連携して対策を実施



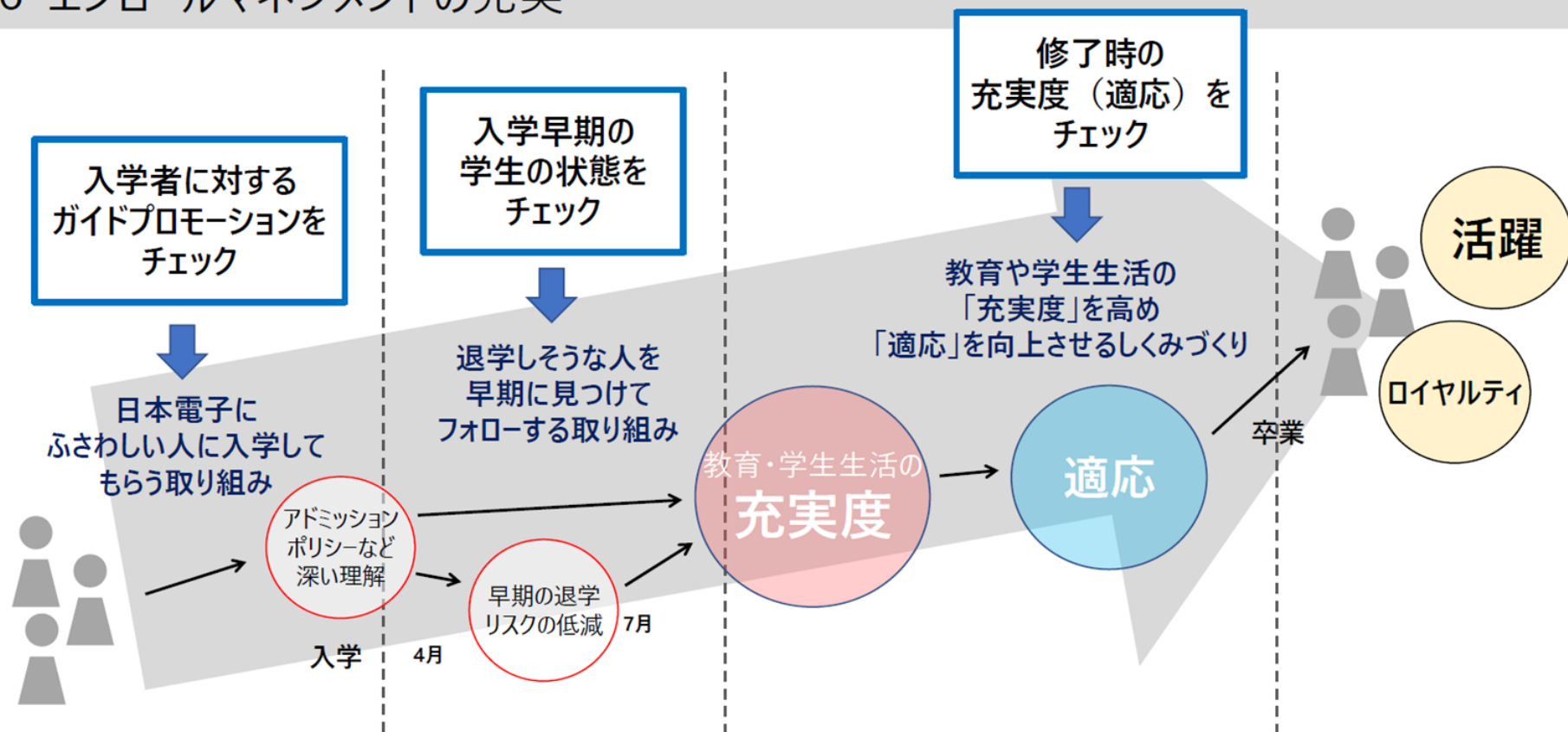
令和4年度結果

ドロップアウト率(全体)
2020-2023

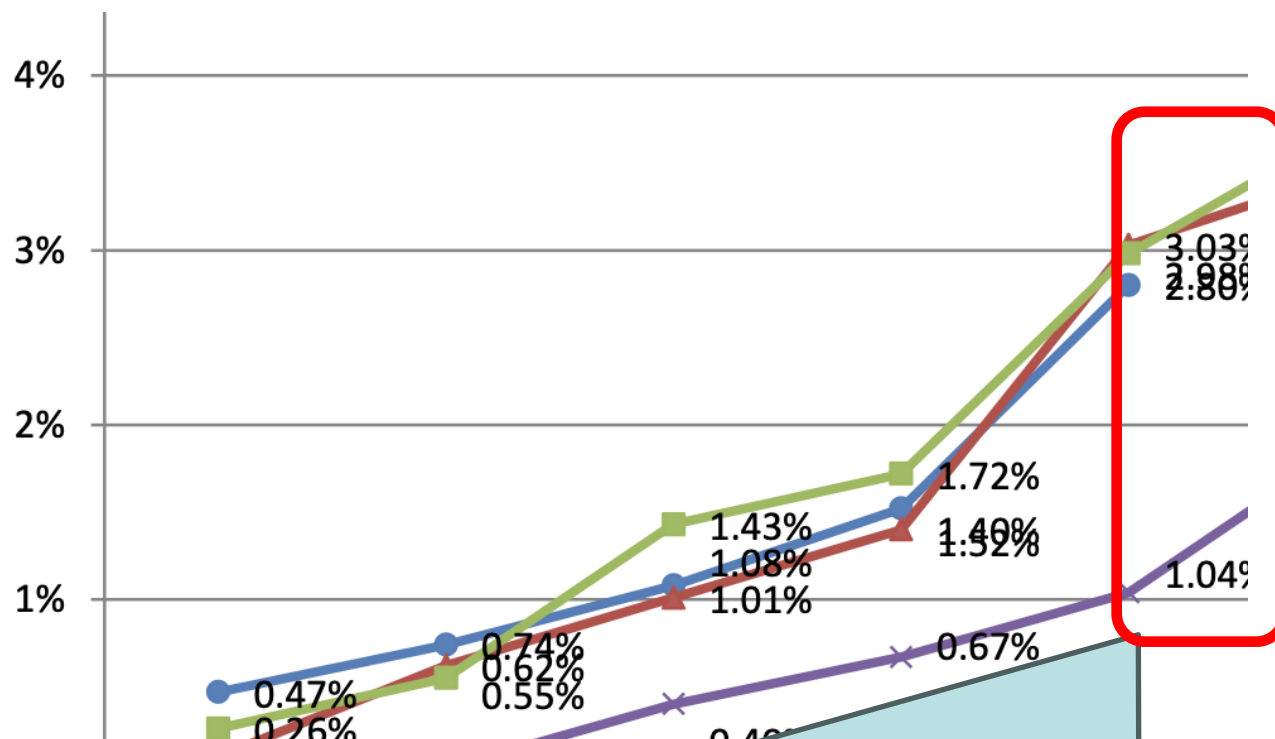


・ エンロールメントマネジメントの充実

6 エンロールメントマネジメントの充実

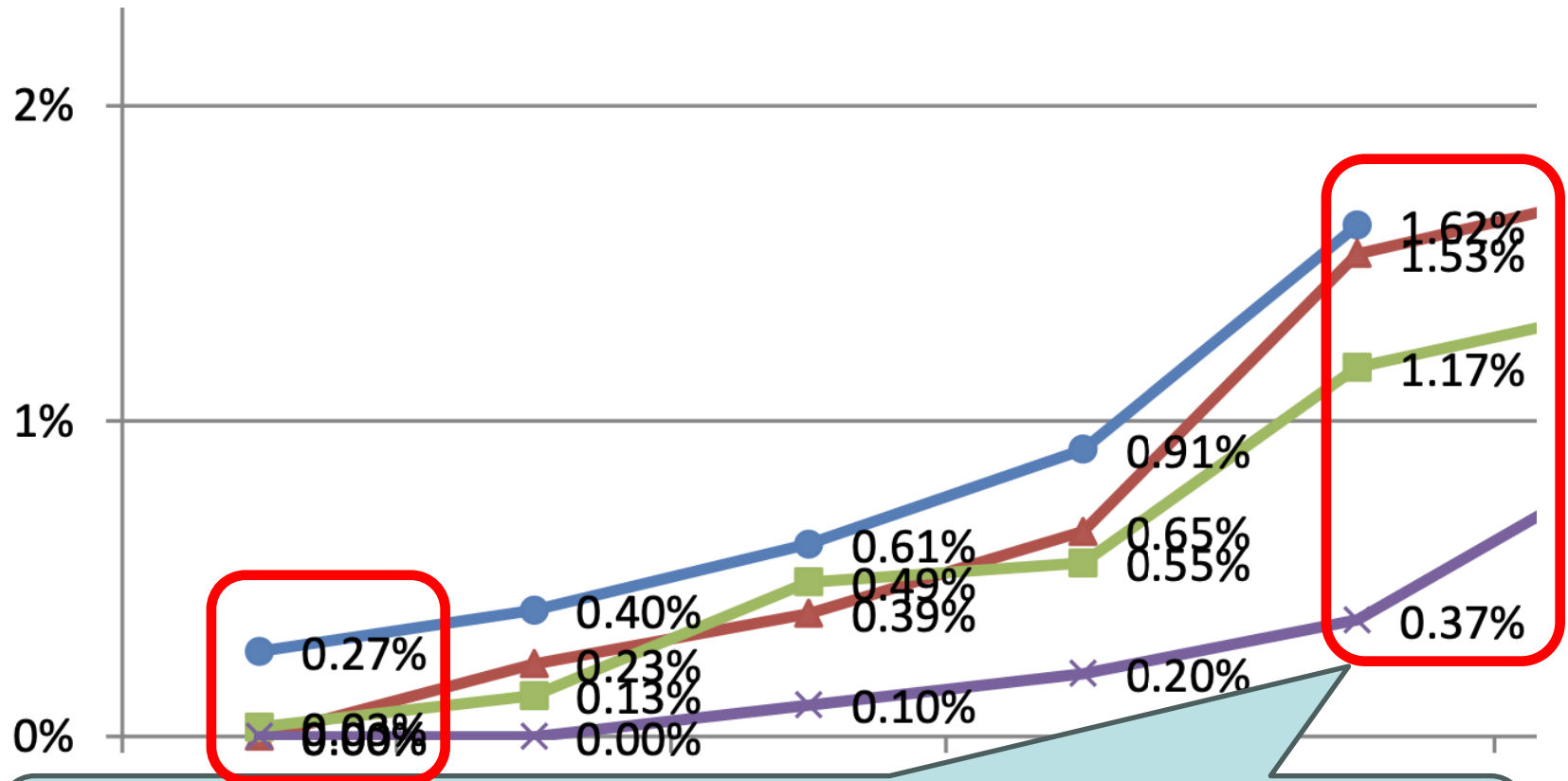


- 令和5年度前期結果(全体)



1.04%(2020年)→3.03%(2021年)→2.98%(2022年)から
2.80%と若干の改善

令和5年度前期結果(学習)



0.37%(2020年)→1.17%(2021年)→1.53%(2022年)から
1.62%と微増

- 令和5年度の傾向
 1. 入学時の学科イメージ・学習内容と差異がある
 2. 毎日の通学に慣れていない入学者が一定数いる
 3. ドロップアウトのきっかけとして学生個々に個別の問題を抱える案件が増えている

1. 入学時の学科イメージ・学習内容と差異がある
 - ・ 入学者に対するガイドプロモーションをチェック

<対策>

- ・ 募集イベントで伝える内容の見直し
- ・ 学習習熟度に合わせて授業運用の実施

2. 毎日の通学に慣れていない入学者に対して

- 早期に注意が必要な学生を把握する

＜対策＞

- 全教員に対して週に1～2回、メールにて学生の出席状況を共有する
- 注意が必要な遅刻・欠席の傾向について（特定曜日の遅刻・欠席等）
- 欠席学生への対応方法について（まずは事情を確認）

3. 学生個々に個別の問題を抱える案件の増加

- 担任の教員だけでなく、学科・キャリアセンター全体で取り組む

<対策>

- 週間出席率を確認し、急激に変化した学科について学科長・担任と面談
- 毎月のクラス在籍報告から状況確認のため面談
- 情報共有ツールである、「学生指導経過表」や「クラス在籍報告書」の見直し・改訂
- 学生状況、指導履歴把握のためのシステム変更を検討・後期提案

- 「指導経過表」の改訂
- 担当教員の視点において、ドロップアウトの要因としてどのような要素があるのか等に気付くツールにもなりうる
- 学科内で学生個々の情報が共有できるツールとして、意識の共有がなされるように改訂をする

- 後期に向けて
 - これまで以上に1人1人の学生対応に時間のかかる事例が増えてくる
 - 1人の教員が負担するのではなく、学校全体の取り組みとして様々な教職員が関わりながら取り組んでいくという姿勢が必要